

平成24年度第2回 美浜区区民対話会

議事要旨

日時 平成 25 年 2 月 2 日(土)

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

場所 美浜区役所 4 階講堂

【テーマ】

「子育て世代に魅力あるまちづくりについて」

1 開 会

2 区長挨拶

3 参加者紹介

・参加者 24 名（傍聴者 3 名）

4 美浜区における現状等について

事務局から、パワーポイントを用いて説明。 ※配付資料参照

- ・美浜区の人口動態の変化
- ・今回のテーマに至った背景
- ・美浜区の子育て施策の現状

5 事前アンケートまとめについて

事務局から、参加者を対象に実施した事前アンケートまとめについて説明。 ※配付資料参照
(アンケート設問)

- ・千葉市の子育て施策について、「充足していると感じるもの」「足りていないと感じるもの」
- ・美浜区を子育て世代にとって「魅力あるまち」「住み続けたいまち」にするためのアイデア
- ・「子育て施策の充実」以外において、若い世代を美浜区に呼び戻す方策等

6 意見交換 ※事前アンケートの3つの設問に基づき、意見交換を実施。

(1)子育て施策について、「充足していると感じるもの」「足りていないと感じるもの」

●子ども医療費

【参加者】

- ・1回300円の自己負担という制度については、喜んでいる保護者が多い。
- ・昔と比べて恵まれた環境にあると感じる。医療費はかかって当たり前、無料にすることは反対である。
- ・今後の給料増加が見込まれない世代にとっては、学費など子どもの養育にかかる費用が増える小学生高学年以降に、医療費の支出も増えることについては不安を感じる。子どもをつくるのを渋ったり、人数を絞ったりということになる。
- ・心も身体も成長期であり、通院の助成対象を小学校6年生までにしてほしいという保護者からの意見が出ている。

【美浜区長】

- ・自己負担額についてはいろいろ議論があるが、0円とすると歯止めが効かないということで、健康に留意してもらうことから、少額の自己負担を設定している。

(美浜区こども家庭課長)

- ・通院の助成対象について、県内の市町村では、千葉市と同様に小学校3年生までとしているところ、小学校6年生までとしているところ、中学校3年生までとしているところがある状況である。今後は、他の市町村に合わせていくようになっていくと思われるが、いつとははっきり申し上げられない。

●医療機関

【区長】

- ・産婦人科や小児科が少なくなってきている状況であるが、暮らしている中でどのように感じているか。

【参加者】

- ・地域間によって差があると思われる。以前住んでいた真砂の病院は空いていたが、今住んでいる打瀬では、小児科は朝から予約しないと行けない。打瀬に関しては、小児科医は全然足りなくて、危機的状況だと思う。

【美浜区長】

- ・打瀬は、一番子どもの多い地域であり、小児科は数的にはあるのかもしれないが、子どもの数の割には足りていないのかもしれない。

●子どもを預ける施設

【美浜区長】

- ・市の取り組みにより、平成24年4月1日現在、美浜区の保育所の待機児童は4人にまで減った。子どもを預ける施設に対しての意見はどうか。

【参加者】

- ・実家が近くになく、夫も夜は遅いため、私が怪我をして入院することになったときは子どもを預ける場所が無く、大変困った。そういった時に預けられるところが欲しい。
- ・私も実家が遠く、体調を崩したときがあったが、近所の方が預かってくれることがあり、すごくありがたく思った。近くで見守ってくれる人がいるという環境があるとうれしい。
- ・子どもが小さいとき、保育園については、延長保育がありすごく助かっていた。子どもルームはその当時 6 時までであった。冬場は真っ暗な中、1 年生であって帰されてしまうため心配であった。

●子育てについての相談先

【美浜区長】

- ・厚生労働省の統計によると、4 人に 1 人の母親が子育ての悩みを相談できる人がいないようである。昔は 3 世代で暮らすことが多く、家の中で子育ての先輩にいろいろ話を聞いた。今はなかなかそのような環境にない。市でもファミリーサポートセンターなどをつくっているが。

【参加者】

- ・若い世代は一般的には知らない人には相談しにくいというのがあると思う。窓口を用意すれば相談するだろうというのは、若い人の感覚からはちょっと違う気がする。ホームページに過去の相談事例などがある分には、安心して見ることができる。なるほど、相談するとかいうことを言ってくれるのかと。私は保育園や小学校で役員をやっている関係で、知り合いが多く、先達の話が聞けたりする。知り合いであれば、普通に聞ける。どちらかという、子育てをしている人の悩みを聞くための窓口を用意するというよりは、地域の同世代の人と、どうコミュニケーションをとってもらおうのかというほうが、むしろ効果的なのではという気はする。

(2) 美浜区を子育て世代にとって「魅力あるまち」「住み続けたいまち」にするためのアイデア

●高齢者とのかかわり

【美浜区長】

- ・高齢化が進んでいく中で、美浜区の特徴としては、高齢単身者が多いということ。子育ての先輩である高齢者にとってみても子どもと一緒にいるときは楽しい時間だと思う。そういう区の特徴を使って、さらに魅力を上げられるようなことはできないか。

【参加者】

- ・幸町では、人材バンクの一つとして地域と小学校が連携して、名前を「人生万歳」というが、子どもたちと昔遊びや家庭科の授業に入るなどで交流を持っている。地域の方と子どもたちのかかわる場合は、地域と学校の連携により進むし、子どもたちは核家族が多いので高齢者とのふれあいを喜び、高齢者の側も生きがいの一つになる。地域で子どもたちを育てていくという意識が高まる。
- ・美浜区は団地やマンションが多いので、その集会所を上手に使って、子どもたちと高齢者が囲碁をしたりマンガを読み合いしたりするような居場所づくりを提案したい。その団地の中の高齢者が見守ってく

れると安心して子育てができるようになるのではないかと。助成金を出して推奨していくこともどうか。

【美浜区長】

・幸町といえば、子どもの登下校を高齢者が見守っているというパトロール活動が有名である。

●子どもを骨太に育てる

【美浜区長】

・美浜区は人工的に町をつくったところであり、ある意味で言うと自然が足りない。自然と交わりながら元気な子どもを丈夫に育てていくことも大事であると思う。

【参加者】

・外遊びというのは非常に大事だと思う。体も元気になるし、心も丈夫になって、その中で人とかかわることによって生きていく力をすく育んでいくと思う。ハッピータウンプレーパークでは、火起こしもやっている。マッチで火をすったこともない子どもたちが多く、自分で危険な目にあわなければわからない。守るだけではなくて、大人が本当に見守っていれば子どもたちはどんどんたくましく育ってくれると思う。

●情報の発信

【美浜区長】

・市のこども企画課が子どものイベント情報をホームページで発信している。

【参加者】

・地域の団体はアナログな部分がある。案内は常にプリントであり、一部の人にしか届かない。例えば子ども向けのイベントについては、主催者(市・区・地域)にかかわらず大概載っているというようになれば、すぐ見ると思う。そういう場を公的機関が用意して、集約していただくとう有意義だと思う。いい活動をされていても、年配の方が中心だとホームページがなかったりするの、もったいないと思う。

・行徳や東京に「子育てサロン」というのがあり、子育てに関する情報をまとめて一つの場所で発表している。親子連れがたくさん来ており、ここでまず親御さんは友達をつくり、子どもたちが一緒に育っていくというような居場所づくりが行われている。その「子育てサロン」のように、ここに行ったら全部一目瞭然でわかるというようなものも美浜区であつたらいい。

【美浜区長】

・行政のほうも、情報をどうやったら皆さんのお手元にしっかり届けられるのか、提供方法の工夫を検討しなければいけない。市のホームページも工夫しており、分野ごとに必要な情報を集約している。例えば「引越し」の際に必要な手続きについて、そこをクリックすると全て見るができるように。

【参加者】

・ホームページに限らず、ツイッターなど色々な手段も検討してほしい。

(3)「子育て施策の充実」以外において、若い世代を美浜区に呼び戻す方策等

●学校との連携

【参加者】

・学校の充実というのは若い人を呼ぶのには良いと思う。幸町のように地域と学校が連携していることは良いモデル。区も推奨して行ってほしい。

【美浜区長】

・幸町第三小学校の教頭先生は地域との連携にとてもやる気がある。打瀬の小学校の校長先生方も、土日に出勤してまち歩きで子どもたちにいろんなものを見せようと積極的である。学校が協力してくれるというのは大きな力である。

【参加者】

・地域の人が学校に入っていくことはすごくいいことだと思うが、先生の負担が増えることは気になる。できれば、先生個人に依存しないようにうまくできるといいと思う。

【参加者】

・中学生の子どもがいるが、塾の学費が高額で負担である。先生の放課後の時間を奪うのは申し訳ないが、学校で子どもの勉強のフォローをしてくれるとうれしい。

【美浜区長】

・美浜区には神田外語大学がある。うまく交流して、塾以外で語学を教えてもらう機会を設けるとか、一つのヒントになるかもしれない。

・打瀬で1年間通じて会議を行ったが、千葉大の大学院生が4、5人手伝ってくれて、良い資料を作成してくれた。千葉大は稲毛区であるが、大学に声をかけると協力を得られる。

●美浜区への呼び込み

【参加者】

・休日には幕張メッセでいろいろイベントが開催され、海浜幕張駅周辺にはたくさんの人で賑わう。そこで、「美浜区に住んでみませんか」みたいなパンフレットを配り、アピールすることはどうか。その結果、わずかでも引っ越してくれれば。その人たちが知人に「引っ越したけど、いいよ」などと言ってくれれば、なおいい。

【美浜区長】

・他にもQVCマリフィールドなど、いろいろ施設があるので、区の特徴をパンフレットにして、アピールするという事は貴重な意見である。

●住環境の整備

【美浜区長】

・美浜区には約6万世帯あるが、そのうちの約2万世帯がUR、県営や市営の公営住宅が約4分の1占めている。これも美浜区の特徴であるが、大分古くなってきた住宅は、若者にはあまり好まれなくなってきている。

【参加者】

・美浜区は地味なところだと思うが、全世帯に対する中高層住宅の比率というのが行政区でくったときに日本一になる可能性がある。URの分譲物件に手は入れられないが、賃貸物件であればURと協議す

ることにより、魅力的な間取りにつくりかえて若い世代を呼び込むことはできると思う。その結果、若い人が定着すれば、そのまま子育て世代としていてくれる可能性があると思う。

・若い世代をどこから呼び込むか。隣の花見川区から呼びこんでも千葉市の中でけんかしているだけなので、明確に、地方から出てくる人が横浜市ではなくて千葉市を選んで、さらに美浜区を選ぶということを考えたときに、何ができるかなというのを考えたらいいのかなと思う。美浜区の特徴をいかに生かしていけるか。

【美浜区長】

・追加して説明すると、美浜区では戸建住宅は全体の約 1 割、中高層住宅という3階以上の住宅が約 9 割。そのうちの約 25%が UR や公営住宅で占めている。

【参加者】

・二子玉川での「職住近接」の取り組みを見て、すごいと思った。企業は通勤手当を削減できるし、社員は通勤が楽にある。美浜区には土壌として幕張メッセがあるし、企業もたくさんあるので、行政と企業の連携もあつたらいいと思う。

【美浜区長】

京葉線の駅の 1 日の乗降客であるが、海浜幕張が千葉駅の半分で約 5 万人。検見川浜が約 1 万 9,000 人、稲毛海岸は 2 万 1,000~2 万 2,000 人。多数の人がいろんなところへ通勤・通学しているわけであり、二子玉川の例が美浜区でもうまくできればと思う。

★まとめ

【美浜区長】

・子育て支援などで活動している、まさしく今日お集まりの皆さんを、行政が支援していかなければいけないと感じている。

・千葉市では UR と包括協定を結んでいるので、こういうものを生かしながら若者向けの住宅などを増やしていって、呼び込むことができないか。

・子どもたちが、高齢者や学生など、さまざまな世代と交流できるような場をつくって、骨太の子どもを育てる環境づくり。

・美浜区では「人財バンク」という事業を始めている。自分の知識や経験を役立てたい方に登録いただき、その人財を求めている方とのコーディネートをするという取り組みである。

・幕張メッセやQVCマリフィールドなど、美浜区の情報を積極的に発信していくことで、たとえ少数であっても、美浜区に来てもらえるようになればいい。

・他にもたくさんご意見をいただいた。私と話したからといってすぐそれが実現するわけではないのだが、一つずついろんなことに役立てたい。

7 閉会